

Building lifestyle around Ferrari

次期V12はターボではなくハイブリッド

812スーパーファストが発表されたジュネーブ・ショーを久々訪れた。そのメディア向けのミーティングで、トップのセルジオ・マルキオンネが語る。



新 たなV12モデル、812スーパーファスト発表の興奮冷めやらぬフェラーリ・ブース。その奥のテラーメイド・ルームで、各国の一部メディアを集めたミーティングに出席した。実は前回のパリ・サロンでも出席しているのだが、その時は代表のセルジオ・マルキオンネがパリ・サロン自体の参加をパスしたようで、急遽参加をキャンセル。他のボードメンバーだけで行なったという経緯がある。

というわけで今回も同じボードメンバーだと思いきや、ミーティング自体が中々始まらない。そのお蔭で結果的には中座することになるのだが、その理由はすぐにわかった。空いていた真ん中の席に、マルキオンネが座ったからである。最前列に構えていた私は俄かに緊張してきてしまった。かつてはフィアッ

トとGMの提携で主役となり、その"離婚"後にクライスラーとの"再婚"を導いた、ここ10年のイタリア自動車界における主役が目の前にいる。モンテゼーモロ退任のあとは、その後を継ぎフェラーリのトップも兼任している、つまりは"ドン"だ。

その切れ味は鋭かった。とある質問者「あなたは2021年の退陣を表明していますが、その前にF1でタイトルを獲ると思いますか?」マルキオンネ「はい」「今年、10億ユーロ以上稼ぐラインに入っていますか?」「はい」「もう少し拡大して頂けますか? (苦笑)」「あなたはふたつの質問をしましたよね? だからイエス、ノーで十分。答えはイエスカノーだ」

一番前に座っていたが、背中の方の向こうの空気が変わったような気がした。ちなみにこれは冒頭でのやり取りだ。その後は何度か長いセンテンスを話す場面も見られ、他のボードメンバーは話を挟む余地がない。こう書くのも申し訳ないが、格が違う雰囲気だ。そして中盤、興味深いやりとりがあった。

別の質問者「V12の未来はどうなりますか? ターボチャージャーですか?」マルキオンネ「ああ、それは持ち出さなくてくれ。ちょうどこのことに関する頭が沸騰する会議が終わったばかりだ。私は担当者へV12にターボを載せたいと言った。彼は私に、答えはノーだと言った。だから自然吸気だよ」「ハイブリッドですか?」「ハイブリッドだ」

もうこれだけ十分だろう。切れ味も鋭ければ、内容もハッキリしている。さすがは業界の主役となった時代の人だ。しかし誰かはわからないが、そんなマルキオンネにV12へのターボ搭載をノーと言った人物こそ、フェラーリの歴史を救った人物かもしれない。実はだいたい想像はついているので、それはいつか本人に聞いてみることにしよう。



今号の主役はGTC4ルツ。東京で神戸で、じっくりと接してきた。自然吸気のV12は本当に素晴らしい。その魅力をスポイルするであろうターボを回避できたのは、歴史的英断と言えよう。